

2019年タイ研修報告書



2019年1月7日（月） - 1月12日（土）

目次

目次	p 1
スケジュール.....	p 2 – 5
〈参加者レポート〉	
後藤公瑠美「エレファントキャンプの設立までと今後の課題」.....	p 7 – 8
杉下舞「マヒドン大学学生寮内でのフードロス問題」.....	p 9
中川美奈「フローティングマーケットにおける観光地問題について」.....	p 10 – 11
中見咲月「環境に配慮した宿泊施設の取り組み」.....	p 12
和才侑奈「観光業活性化のための新型テーマパーク」.....	p 13

スケジュール

◆ 1月7日 (月)

17:00 タイ国際空港 到着
19:00 夕食



写真1

夕食：パッタイ



写真2

Salaya Pavilion Hotel (マヒドン大学内)

◆ 1月8日 (火)

7:00 朝食
8:15 ミーティング
8:30 待ち合わせ
9:00 キャンパスツアー
12:30 昼食
13:00 ローカルマーケット
14:00 ワットプラパトムチュディ 到着
19:00 夕食



写真3
マヒドン大学内噴水前にて



写真4
ワットプラバトムチュディ

◆ 1月9日(水)

- | | |
|-------|-----------------|
| 7:00 | 朝食 |
| 8:00 | 出発 |
| 12:00 | 戦場に架ける橋 |
| 13:00 | 昼食 |
| 13:40 | Mallika Village |
| 15:30 | エレファントキャンプ |
| 19:00 | 夕食 |
| 20:00 | BBQ |



写真5
Mallika Village(1)



写真6
Mallika Village(2)



写真7
エレファントキャンプ



写真8
タイの昔の遊び体験

◆ 1月10日(木)

8:00	朝食
9:30	出発
10:00	マヒドン大学 寮見学
12:00	昼食
15:00	エラワン滝
17:00	デッドレールウェイ
17:30	フラワーフェスティバル
19:00	夕食
20:00	BBQ



写真9
マヒドン大学 キャンパスツアー



写真10
エラワン滝



写真1 1
デッドレールウェイ



写真1 2
移動バス内

◆ 1月11日(金)

8:30 朝食
12:00 水上マーケット
14:00 昼食
18:30 タイ国際航空 到着

1:00 福岡国際空港 到着
(日本時間
1月12日)



写真1 3
水上マーケットにて



写真1 4
昼食レストランにて

参加者レポート

エレファントキャンプの設立までと今後の課題

16 環境 021 後藤公瑠美

今回の研修中、エレファントキャンプに向かい、そこで飼育されている象に乗る機会があった。日本ではできない体験だと思い、最初は気持ちが高まっていた。しかし、一緒に乗ったマヒドン大学の学生から様々な話を聞き、象乗りを安易に楽しんでしまったことを反省した。

タイにとって象は、旧国旗にも掲げられていたように特別な存在である。また、象はタイの人々の生活にも必要不可欠な存在であり、国家の象徴ともいえる。およそ100年前、約10万頭もの象が飼育され、主に林業の支えとなっていた。しかし、乱伐が原因で法により伐採が禁止され、林業が減少し、国が発展するにあたり、道路や建物の増設で、特に野生の象の生活場所が制限されていき、象は年々減少している。

この問題を解決するために、保護と育成を目的としたエレファントキャンプを設立し、観光客を対象とした新たなビジネスを作り上げた。象を保護できるビジネスが確立されているのは良い方向に向かっているのではないかと私は感じた。しかし、マヒドン大学の学生から「象が人の指示に従うようになるには様々な訓練を受ける必要があり、象の皮膚が厚い分、先が鋭い道具を使って訓練する。訓練を繰り返せば、象の皮膚も傷つき、同時に心も傷ついている。」と聞き、さらに、「訓練された後も観光客を相手に自由がきかない状態で、象にとって負担は大きい。」と聞いたときは、象のためにつくられたビジネスも象にとって負担になることもあることを学んだ。また、「だから、他に象を守る良い方法がないかを研究している。」と聞き、現状を変えようとしている動きがあることを学んだ。また、飼育されていない野生の象は人々の生活の開拓により、象と人々の生活が密接になりつつある。エレファントキャンプにいる象や日本の動物園の象などをイメージしていると、ショーなど切り取られた部分しか見えないため、温かな性格、賢い動物などのイメージがある。しかし、野生のゾウは凶暴な部分もあり、時には人を攻撃することもあるため、野生の象には近寄らないことが当たり前であることを聞いた。象による農作物の被害も問題となっており、国の発展と象の共存が難しくなっていることを知った。



写真15
象がエサをもらう様子

これらのことから、タイの象を傷つけるような訓練のやり方には違和感を覚えるが、その訓練のやり方が代々試行錯誤を重ねて生み出されたものであり、また、エレファントキャンプなどの施設が観光客を呼び込む一つの要素であり、結果、象を守ることに繋がっていることを踏まえると、エレファントキャンプの存在は守られていくべきものであると考える。ただ、マヒドン大学の学生が述べていたように、今の方法が一番であると決めつけるのではなく、象にとっても人にとってもより良い方法がないか模索し続けることが重要なことではないかと考える。ゆえに、私が象に乗ったことは、象を守るために今できることであつたと思いたい。



写真16
道具を使って象を誘導している様子

[参考文献]

- 西日本新聞 2016年10月5日 「『ゾウ害』多発 作物食い荒らす 20頭出現も 知能高く 対策いたちごっこ タイ」
<https://www.nishinippon.co.jp/feature/attention/article/284463/>、2019年1月25日閲覧
- Newsclip 2017年8月18日 「タイ各地で野生ゾウによる被害相次ぐ」
<http://www.newsclip.be/article/2017/08/18/33876.html>、2019年1月25日閲覧
- Newsclip 2017年6月1日 「パイナップル、ドリアン タイで野生ゾウの被害相次ぐ」
<http://www.newsclip.be/article/2017/06/01/33186.html>、2019年1月25日閲覧
- Wikipedia 2018年7月5日 「タイの国旗」
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BF%E3%82%A4%E3%81%AE%E5%9B%BD%E6%97%97>、2019年1月25日閲覧
- JTB KAN Anna 2014年7月3日 「タイの人々とゾウの深いつながりを知る」
https://www.jtb.co.jp/kaigai_guide/report/TH/2014/07/thai-elephant.html、2019年1月25日閲覧

マヒドン大学学生寮内でのフードロス問題

16 環境 034 杉下舞

1月10日に行ったカンチャナブリのマヒドン大学を見学した。マヒドン大学は1988年に国内初の医療学校として設立された。現在は総合大学へと発展し17学部、7つの研究所、6つの短大学を持っている。また学生数は約2万人であり、その学生の一部が住んでいる男性と女性寮の冷蔵庫の中身を見させてもらった。その結果わかったことを以下に記載する。

二階建ての男性寮は冷蔵庫が一階と二階で一緒に使われている。冷蔵庫の中身は比較的食品が少ないように思えた。タッパで食べ物を保存し、ペットボトルの水が多かった。四階建ての女性寮は15部屋で一つの冷蔵庫が使われている。男性寮の冷蔵庫に比べ、食べ物が多く引き詰められていた。おしゃれなドリンクやフルーツが多く、袋に入れて保存されていた。男性寮に比べ食べ物が多いのは女性が男性より多くの食べ物を食べきれられず、冷蔵庫に保存するのではないかと考えた。入るところに無理やり詰めていて、自分たちでも管理できなくなった食べ物は腐っていた。部屋の番号を書く決まりがあるそうだが、ほとんどの食べ物は書かれていなかった。無造作に入れられた食べ物は管理できにくいため忘れられやすい。そのため、部屋ごとに入れ物を分け、自分の部屋の入れ物の中だけに食べ物を入れる工夫をしたらもっと冷蔵庫の中が整理され見やすく、尚且つ取り出しやすくなるのではないかと考えた。

マヒドン大学の寮は近くに食料を買う場所がないため、買いだめし冷蔵庫に保管してしまうのであろうと私は推測した。そして福岡女子大学の寮では一ルームに一つの冷蔵庫で使うため整理しやすいが、マヒドン大学では多くの人数で共用しているため、誰がどの食べ物を入れたか把握することが大切になってくる。今回自分の目で確認し、考えられるところがたくさんあった。自分の卒業研究に今回考えたこと思ったことをまとめ生かしていきたいと思う。

[参考文献]

- Mahidol university 「About Mahidol」
<https://mahidol.ac.th/>、2019年2月1日閲覧

フローティングマーケットにおける 観光地問題について

16 環境 042 中川美奈

今回の研修の5日目に、Amphawa Floating Market（アンパワーフローティングマーケット）に行った。タイには大規模から小規模まで数多くの水上マーケットがあるようだ。また、タイを観光する上で訪れたいスポットの1つとしても水上マーケットが紹介されている。水上マーケット(フローティングマーケット)はずっと昔から、運河の上や運河の近くに住むタイの人々の生活の一部として存在していて、現在では海外からの旅行者にも知られるタイを代表する観光地となっている。私たちが訪れたアンパワーフローティングマーケットにおいても、現地の人々や観光客など多くの人々で賑わっていた。特に、川岸から少し歩いたところにあるワットバンクンという巨木の根に覆われた寺院では、多くの観光客で溢れていた。しかし、同時に観光地としての問題を抱えていることもわかった。それらの問題に対し、マヒドン大学の学生が取り組んでいる対策について紹介する。



写真17
フローティングマーケットに
設置されたポイ捨て禁止のロゴ

アンパワーフローティングマーケットでは、do not litter, use bins provided（ポイ捨てをせず、設置されたごみ箱に捨ててください）という環境問題に関するロゴが設置されていた。また、ワットバンクンという寺院の入口の前には、写真のような please take off your hat（帽子を脱いでください）や、remove your shoes before entering(入る前に靴を脱いでください)などのマナーを示したロゴが掲示されていた。このロゴは、タイ語だけでなく英語と中国語で書かれてあり、現地の人々に限らず観光客にも理解できるように示してあった。このような方法で、観光地における環境汚染問題を改善するための対策やマナーを理解してもらうための対策が行われていた。

現実的にタイで最も主要な環境課題となっているのは水質汚濁問題であるとされている。私は実際に船に乗って移動する中で、水上マーケットの川の水を間近で見て、汚染されていることを実感した。タイの水質汚濁問題は生活排水や工場排水が主な原因と考えられていますが、今回紹介したロゴに示されているように、ポイ捨てしないことはタイ現地の人々に限らず観光客にもできることと同時に、これ以上水質・環境を汚染しないためにも必要なことだと思った。また、上記のような絵と言葉で示してあるロゴは現地の環境やマナーを知らない観光客にも理解しやすいので、観光客が多く訪れる場所に設置することで環境保護に繋がると思った。

[参考文献]

- BANGKOK NAVI 「タイ三大水上マーケット比較」
<https://www.bangkoknavi.com/special/5033445>、2019年1月28日閲覧
- 環境省 1999年3月 「タイにおける環境問題の現状と環境保全施策の概要」
<http://www.env.go.jp/earth/coop/oemjc/thai/j/thaij1.pdf>、2019年1月28日閲覧



写真18

ワットバンクン入口に
設置されたマナーに関するロゴ

環境に配慮した宿泊施設の取り組み

16 環境 043 中見咲月

私たちは、研修の1日目と2日目に、Salaya Pavilion Hotel という宿泊施設を利用しました。Salaya Pavilion Hotel は、Mahidol 大学の学部である International collage というキャンパスの最上階にあります。このホテルは、Travel Industry Management and the Business Administration Program に所属している生徒に、講義で学んだ様々なことを実践する場所として、1999年に設立されました。このホテルは2008年に改装され、現在43の部屋を持ち、自然豊かなサラヤキャンパスを感じられるしかけがたくさんあります。このホテルがある6階では、個室の部屋だけでなく、会議に使われるセミナールームも5つあり、250名の人を収容できます。宿泊にも、会議にも最適な場所となっています。

このホテルは、“We try to go green. We love the Earth and we like to take part in caring it” (地球を愛しているため、環境に配慮したホテルサービスを徹底している) と書かれた紙がホテルの個室や、ホテルのロビーなどにたくさんみられます。この紙には、“Since past years, SPH has tried to make an effort, little by little to go green. We adopt some of the procedures or policies from Green Leaf Foundation for our possible implementation. There are certain practices we are doing very well, but some still need improvement. We would like to share with you our green efforts.” (何年も前から、少しずつ環境に優しいホテル作りに努めている。グリーンリーフ財団(タイの環境機関、観光業と環境どちらの質も向上させていうこうとする機関)の規則および手順を Salaya Pavilion Hotel に導入している。いくつかの事例は取り入れているが、まだ改善が必要であると認識している。是非、お客様とも環境に優しい活動を共有したい。)、と書かれていることから、このホテルが、環境守るために様々な活動をしていることが分かる。この文言の下に、SPH's “Green-Practice Efforts”(GPE) という、環境を守るために、ホテルで行われていること15項目が書かれている。ここには、「プラスチックのランドリーバックを提供しない」、「ゲストが持って帰ることのできる小さなシャンプーやボディソープは提供しない」などが書かれている。

その他にも、ホテルの個室には、「人間が使える水は限られています。そのため、当ホテルでは、連泊する際に、前日と同じタオルを使っても良いならば、タオルをラックにおいてください。新しいベットシーツが欲しいならばメモを残してください。顔を洗っているとき、歯を磨いているときに水を流しっぱなしにしないでください。」などの節水を促すものがみられた。また、オーガニックコットンを使用した、ランドリーバックの販売もされていた。このように、ホテル全体に、環境を保護する仕組みがみられた。

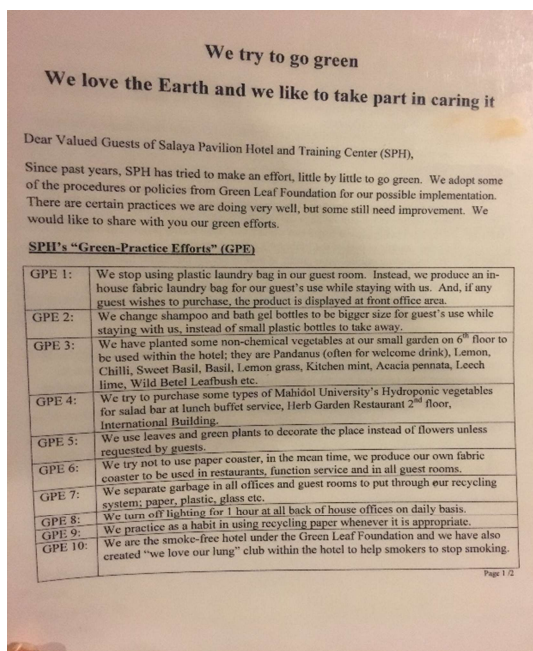


写真 1 9

ホテル中にみるメモ書き、このホテルが環境に配慮するために作られた決まり事が書かれている

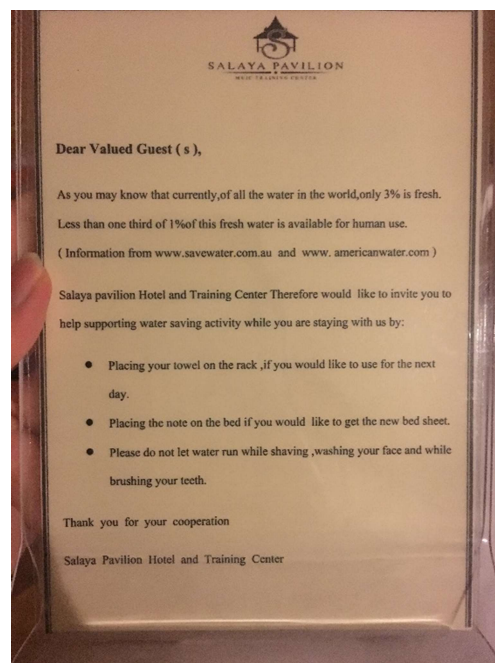


写真 2 0

個室に置かれているメモ書き、環境に配慮した取り組みが書かれている

観光業活性化のための新型テーマパーク

16 環境 068 和才侑奈

私たちは、タイ研修二日目に、Mallika Village というタイの Ancient City を訪れた。Mallika Village は、チャオプラヤー川流域の古代のライフスタイルを反映したレトロな街である。タイ古代の生活の見学ができる場所であるという認識であったが、実際に訪れてみると、生活の見学はもちろん、当時のタイの生活を実際に体験できるプログラムもあった。当時の Satang (サタン) という古代通貨のみ Village 内で利用する事ができ、1 Satang=5 バーツで換金できる。また、タイの民族衣装をレンタルし、Village 内の家屋にて写真を撮るだけでなく、人力車バギーによって移動したり、ディナーを楽しみながらショーを見たりできる。



写真 2 1 タイ 古代通貨 Satang



写真 2 2 Mallika Village 入口 人力車バギー

現在もタイでみられる水上マーケットも、Village 内にあり、当時と変わらない生活スタイルもあると分かった。Village 内では展示されている生活スタイルには2種類あり、庶民と富裕層で家屋や食事も異なっていた。私たちが、現地で馬のような形の木の遊び道具をみて、使い方がわからなくて困っていたところ、現地の方が遊び方を教えてくださいました。また、日本の竹馬に似たような遊具もあった。



写真 2 3 富裕層の家屋



写真 2 4 乗馬の疑似体験の遊び道具

Village 内のシティタワーという高い塔は、元々囚人の脱走を防ぐための監視塔として利用されていたが、今では登ると Village 内を一望する事ができる観光客が訪れる名所の一部となっていた。古代のタイの生活スタイルは、日本の昔の生活スタイルと似ていた。ここから、それぞれの国の技術の進歩や経済の流れの違いによって、現在の生活スタイルに違いが生じていると考えられる。